

学位論文審査の要旨

学位申請者	水津 幸恵 【人間発達科学専攻 平成27年度生】 (平成30年9月単位修得退学)	要 旨
論文題目	幼稚園でのフィールドワークを通じた対人葛藤の保育実践的意味の研究 一倉橋惣三の保育思想とネル・ノディングズのケアリング論を視点として一	本論文は、幼児間の対人葛藤について、倉橋惣三の保育思想とネル・ノディングズのケアリング論を踏まえ、幼稚園でのフィールドワークを通して保育実践的意味を探究したものである。これまで幼児の対人葛藤は、発達心理学において、また日本の幼児教育においては、道徳と結びつけて考えられてきた。しかし、本研究では倉橋惣三の保育思想とネル・ノディングズのケアリング論の視点から、幼児間の対人葛藤が、観念や原則を教授する道徳教育や道徳判断の発達段階理論とは異なる「人間の涵養性」としての保育的な意義があることが示された。また、その理論をもとに、フィールドワークによって実際の保育実践からも迫ることとした。その結果、第 1 に、対人葛藤が他者との関係の中で「自発性」のありようをめぐって起こってきたこと、第 2 に、幼児はぶつかり合いながら皆それぞれにもっている弱さや不完全さを受け入れ合って関係を築いていくこと、第 3 に、対人葛藤を抱えもちながら共に過ごしていくことは、築いてきた関係の歴史に下支えされるとともに、遊びによる自己充実によって、自身の「自発性」を確かめ、取り戻すことが、対人葛藤を経て他者と新たな関係を結び直すことに通じていることが見出された。 本論文の審査会は、平成 30 年 11 月 21 日、平成 31 年 1 月 10 日、平成 31 年 2 月 14 日の三回にわたり開催された。第一回の審査会では、フィールドワークの事例の記述は優れているが、理論についてはわかりにくく、対人葛藤と道徳との関係で改めて整理し推敲することが求められた。第二回審査会では、理論の整理が適切になされ、論文の構成も明確にされたとの評価を得た。第三回の審査会では、細かな点も含め十分な修正がなされ、完成度が高まったことが確認された。平成 31 年 2 月 21 日での公開論文発表会では、約 30 名の参会者に対して、申請者の発表を踏まえた活発な討論がなされ、フロアからの様々な質問にも適切で十分な応答がなされた。 以上の結果より本審査委員会では、全員一致で本論文が博士（社会科学）、Ph. D. in Child Studies にふさわしいと判断し、合格とした。
審査委員	(主査) 准教授 刑部 育子	
	教授 柴坂 寿子	
	教授 浜口 順子	
	教授 小玉 亮子	
	准教授 富士原 紀絵	
インターネット公表	○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否) ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について	